



門別競馬場（日高町）

道経連会報 No.249

CONTENTS

巻頭言	1
北海道新幹線開業1周年特集	2
常任理事会レポート	7
経済施策説明	8
道経連カレンダー	14
英国総領事ご来会	15
ご意見を伺う会	16
日ロ共同経済活動に関する勉強会	17
委員会等の動き	18
がんばる女性を応援する企業	31
会員企業紹介	34
会員の異動	36
新会員企業紹介	37
グループ活動報告	40
お知らせ	50
人事・労務相談日	51
北海道の経済動向	52
事務局人事	59
Face to Face	60
水曜日はALL北海道ノー残業デー	62
まち探訪（シリーズ19）	63
北海道150年事業	66



北海道経済連合会 常任理事

星野 恭亮

旭イノベックス株式会社
代表取締役社長

近年、集中豪雨などの自然災害が多発し、河川周辺の農地や市街地の洪水被害が多数発生しています。このような洪水危険に対する取り組みが各分野で進められています。

ここでは、弊社が北海道から全国に発信した「防災技術」を御紹介したいと思います。

それは、弊社が開発した無動力で自動開閉する樋門ゲート「オートゲート」です。

樋門ゲートとは、支川の雨水や排水を本川に排水していますが、洪水等の時、本川から支川に逆流することを防ぐために、支川と本川との合流部に設けている施設です。

従来の樋門ゲートは、洪水時に操作人が現場に行ってゲートを閉める必要があります。

これは、非常に危険を伴いますし、閉めることができなければ、甚大な被害が発生します。

また、操作人の方々の高齢化が進み、担い手の確保が年々厳しい状況にあります。

このような状況の中、河川管理者から動力を使わず、無人で自動開閉する樋門ゲートの要望がありました。

これを受けて、開発がスタートし、幾多の試行錯誤、水路実験を繰り返し、完成したのがオートゲートです。開発後、少しずつではありますが、採用されるようになりました。

オートゲートが全国的に注目されるようになったのは、先の東日本大震災の時でした。

地震発生後、ゲート进行操作するために向かった多くの消防団員の方々が殉職されました。

この痛ましい教訓によって、無動力で自動開閉するオートゲートが「防災」の切り札として注目されるようになったのです。

また、震災後のオートゲートの津波被害調査において、津波後もオートゲートとしての機能を損なうことなく動作していたことを確認いたしました。これにより、オートゲートの信頼性が高く評価されるようになりました。

今では、全国1600箇所を設置され、国内シェアはほぼ100%、近年の集中豪雨の頻発を受けてオートゲートのニーズがさらに高まっています。

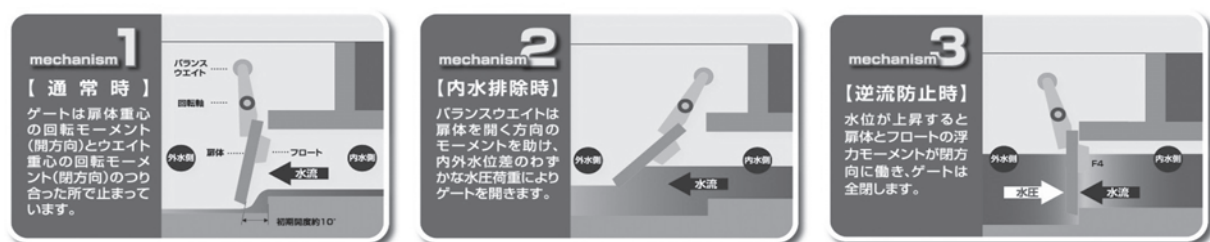
この技術は世界に問うべき日本の防災技術として高く評価され、平成25年「第5回ものづくり日本大賞」の最高の賞である内閣総理大臣賞を受賞いたしました。

今後も弊社の技術を「形」にして、社会資本整備を通して国民の貴重な生命と財産を守る社会活動に貢献して参ります。

そして、北海道のすばらしい産業資源である「食」と「観光」に加えて「技術」の北海道と言われるよう努力して参ります。



津波後のオートゲート



オートゲートの仕組み